地域・コミュニティ活動助成

金ケ崎芸術大学校

岩手県金ケ崎町

重伝建地区の武家屋敷をアートを活かした活動交流拠点として地域に拓いていく活動

旧菅原家侍住宅

団体設立経緯

岩手県胆沢郡金ケ崎町には、かつて仙台藩の要害がありました。現在も往時の町割りが残されていることから、2001年に国の重要伝統的建造物群保存地区（重伝建地区）に選定されています。そのため、地区内ではいくつかの保存物件が公開されています。

われわれが拠点とする「**旧菅原家侍住宅**」もその1つです。30年以上にわたって無住状態だったこの家を地域に開かれた学びの場として活用するために、2018年に「**金ケ崎芸術大学校**」を設立しました。

活動概要と活動対象範囲

金ケ崎芸術大学校は2つの軸に沿って展開されています。第1に、岩手出身の宮沢賢治が「農民藝術」の言葉によって示した生活の芸術化の理想です。第2に、金ケ崎町が1979年に掲げた「生涯教育」の理念です。これらを念頭に、創造的な生活の実現を試みてきました。人々の暮らしとともに受け継がれてきた住環境（座敷、縁側、庭、畑、生け垣など）を活かし、それぞれの興味があることや得意なことを持ち寄る「開校日」を中心に活動しています。

活動に至った理由や背景

金ケ崎の重伝建地区は、選定当初より観光地化を目指すのではなく、住環境としての質を保つことに重きが置かれてきました。しかし、近年では地区内の高齢化などに伴い、空き家の増加が地域課題となりつつあります。こうした状況に対して、これまでに複数の保存物件が復元され、公開住宅や飲食店として活用されてきました。金ケ崎芸術大学校では、侍住宅の環境を活かし、生活そのものを創造的な学びの場としてひらいていくための実践モデルの構築を試みています。

活動内容と成果

（1）「開校日」の取り組み

金ケ崎芸術大学校では、それぞれの得意なことや興味のあるものを持ち寄って、ひとり1人の時間を過ごす「開校日」を設けてきました。2020年度は新型コロナウイルスの感染拡大防止に伴う緊急事態宣言を受けて、4月から5月にかけては休校とし、6月からのスタートとなりました。

社会情勢と向き合いながらの実施ではありましたが、地元の皆さんや近隣市町村にお住まいの方々をメインターゲットとしつつ、生活に根ざしたプログラムを開催することができました。以下、「藍の時間」を中心に1年間の流れを辿ります。

●藍の時間

金ケ崎の伝統的建造物の特徴の1つとして、生活空間（家）と生産空間（畑）が共存する「半士半農」というキーワードを挙げることができます。金ケ崎芸術大学校では、この畑を活用したプロジェクトに取り組んできました。

畑で藍を育てて染め物までするワークショップ「藍の時間」
1. 種から育てた苗を移植する
2. 沈殿藍づくり。刈り取った藍を発酵させ、消石灰などを加えて染料にする
3. 新鮮な藍の葉を使う「生葉染め」で染めたストール
4. 型紙を使って染める型染めワークショップ

なかでも、2019年度から開催している「**藍の時間**」は、参加者と一緒に畑で藍を栽培しながら、収穫した葉で藍染めを行う人気講座です。休校期間中の5月に種まきをして、6月の苗の移植から活動が始まりました。今年も、町内や近隣市から定員いっぱいの10名にご参加いただきました。また、今回の助成をいただいたことにより、畑に近い屋外に水道を設置することができました。これにより活動の幅も広がります。2020年度の実施スケジュールは右の通りです。

第1回　6月21日（日）
苗の移植、折り染め
第2回　7月26日（日）
草取り、追肥、型紙づくり
第3回　8月23日（日）
刈り取り、沈殿藍づくり
第4回　9月6日（日）
刈り取り、生葉染め
第5回　10月11日（日）
刈り取り、沈殿藍づくり、型染め

（2）「図工準備室」の開設

今回の助成申請時の大きな目的の1つとして、「図工室（仮）」の整備を掲げていました。金ケ崎芸術大学

校が拠点とする「旧菅原家侍住宅」は、30年以上にわたって無住の状態が続いていたため、ところどころに傷みが生じています。特に、建物の北側に位置する納戸は床がぶかぶかになっており、長らくデッドスペースとなっていました。そこで、この部屋を大規模改修し、多様な「開校日」に対応できる環境をつくることを目指しました。

改修にあたっては地元の東北工業株式会社にお願いすることになりますが、それに先立って「**ずこうの時間**」を開催しました。これは「図工室（仮）」をつくるための開校日です。これまでに金ケ崎芸術大学校の活動に深く関わってきた大学生を中心に、必要な要素について話し合いました。「写真スタジオがほしい」「プラモデルをつくりたい」「版画を刷りたい」など、それぞれのやってみたいことから備品をリストアップしていきます。その後、家でできることやできないことなどを振り分けながら、仮想のプランが組みあがっていきました。

木材加工など屋外での作業が想定される活動については、敷地内にある別棟の倉庫を「木工室（仮）」として活用する新たなプランも提案されました。最終的には、絵の具を洗う水場の設置や、粘土槽として使用できる床下収納の設置など、いくつかの仕様を検討し、本格的な工事が始まりました。

●「ずこうの時間」スケジュール

第1回　7月5日（日）せっけい
第2回　7月26日（日）さぎょう
第3回　8月23日（日）だいく

まずは傷んだ床をはがしていきます。この建物は文化財でもあるため、取り壊して改修するわけにはいきません。腐っている箇所などに当て木をしながら強度を高めていきます。

今回の改修をきっかけに、町の補助を受けて水回りにも大規模工事を施すこととなりました。これまで汲み取り式だったトイレを水洗化し、それにあわせて下水も整備します。その一環として、「図工室（仮）」にも無事に水場が設置されました。

新型コロナウイルスの流行や歴史的な大雪により思うように工事が進みませんでしたが、3月にはみちがえるような部屋に生まれ変わりました。最終的には、様々な道具を収めたりちょっとした作業をしたりすることができる場所として「**図工準備室**」と呼ぶことにしました。

（3）「城内農民芸術祭」の開催

金ケ崎芸術大学校では、通年で取り組む「開校日」に加えて、季節に応じた年中行事（アートプロジェクト）も開催しています。2019年に始めた「**城内農民芸術祭**」も、感染症拡大防止の観点から規模を縮小することとしましたが、10月31日から11月3日にかけて実施することができました。むしろコンパクトにしたことで、日常生活が拡張される時間としての祭りの意義がより鮮明になったように思います。

庭園を眺めながらジオラマの技法でオリジナルの庭をつくる「**お庭の時間**」を皮切りに、「藍の時間」で育ててきた藍畑から種を収穫する「**裏の畑の収穫祭**」や、郷土芸能の奉納などを行いました。

また、「城内農民芸術祭」の一環として、11月1日には「**ずこうの日**」と称するイベントを企画しました。これは、先に挙げた「図工準備室」の活用を想定し、展示やワークショップなどを通してそれぞれの取り組みたいことを提供し合う時間として設定したものです。

傷みが激しい納戸を改修して、さまざまな用途に使えるスペースとした　（上）「ずこうの時間」で大学生を中心に改修計画を検討　（下左）改修前の納戸　（下右）水場も設置して完成した「図工準備室」

10月31日から11月3日にかけて開く催した「城内農民芸術祭」では、各種展示やワークショップを実施 **1.** 藍の種を採る「裏の畑の収穫祭」 **2.** ミニチュアの庭をつくる「お庭の時間」 **3～6.**「図工の日」の様子

当日は、「藍の時間」の講師や受講者による作品展示に加え、漆芸を学ぶ大学生による塗り箸づくりのワークショップやプラモデルづくり体験などを実施しました。様々な活動が同時多発的に展開するにぎやかな1日となりました。

（4）パンフレット（金ケ崎芸術大学校学校案内）の作成

「図工準備室」の完成やトイレの水洗化、屋外水道の設置などを通して、創造拠点としての活用の可能性は大きく広がりました。これまでも地域にひらかれた学びの場を目指してきましたが、より多くの人々に利用していただけるように、金ケ崎芸術大学校の使い方をまとめたパンフレットを作成しました。そこには従来の「開校日」に加えて、個人やグループで活動場所として使用するための選択肢も示しています。今後、町内および近隣市町村で配布しつつ、反応を待ちたいところです。

併せて、新年度の新たな取り組みとして、「開校日」の一部を「学科」として通年で開講することとしました。2021年度には「染めっ科」「つくろっ科」「かぶれっ科」「化けっ科」の4学科を開設します。

課題と解決方策

当初の計画では、「図工室（仮）」の開設と並行して「誰でもアーティスト・イン・レジデンス」事業にも取り組む予定でした。これは、希望者が金ケ崎芸術大学校に一定期間滞在しながら、制作や執筆、研究などを行うものです。この事業については不特定多数の宿泊が前提となるため、感染拡大防止の観点から、実施の目途が立っていません。

その一方で、社会全体のオンライン化が急速に進む現状に対応するために、通信環境を整備しました。これまでは、必然的にアナログであることにこだわっていましたが、今後はワーケーションなども念頭に、新たなレジデンスのあり方を検討していきます。その一環として、群馬大学で教鞭をとる市川寛也氏が大学校から大学の授業を配信する試みにも取り組んできました。現実空間とオンラインの双方の利点を生かしながら、使い方の可能性を広げていければと思います。

今後の予定

新たに作成したパンフレットには、金ケ崎芸術大学校の使い方として「開校日に参加する」「開校日を企画する」「活動場所として使う」「運営に関わる」という4つの選択肢を設けています。今後は、金ケ崎芸術大学校を「自分の場所」として使ってもらえるようなファン層を増やしてくことが課題となります。

そのための試みとして今年の夏休みには、小学生が合宿形式で制作や自由研究などに取り組む「**小学生ウィーク**」の開催を予定しています。

金ケ崎芸術大学校

2018年4月設立／メンバー数：8人／代表者：市川 寛也（いちかわ・ひろや）
●〒029-4503　岩手県胆沢郡金ケ崎町西根表小路9-2
☎080-7225-1926　✉kanegasakiartcollege@gmail.com
kanegasaki-artcollege.jp　twitter.com/kanegasakiart

岩手県胆沢郡金ケ崎町にある重要伝統的建造物群保存地区において、保存物件を地域に開かれた学びの場として活用するプロジェクトに取り組んでいます。キーワードは「農民芸術」と「生涯教育」です。